

〈資料〉 坂本日深文庫について

沼田 晃佑

令和二年三月現在、身延山大学附属図書館（以下、図書館）では十三件の個人文庫を所有しているが、その中で質・量ともに他を抜きん出ているのが坂本日深文庫（以下、坂本文庫）である。^①

坂本文庫は、立正大学第十七代学長であった坂本日深（一八九九—一九七三）の旧蔵書であり、坂本師逝去後の昭和六十三年（一九八八）より本学の所蔵となっている。

本学が所蔵に至るまでの経緯について、身延山短期大学学会（現、身延山大学仏教学会）発行の『棲神』第六十号（昭和六十三年三月発行）収録「学園彙報（昭和六十二年度）」の「(1) 身延山学園「新図書館」竣工近し！」（一八六頁）の記事に、

（前略）尚、竣工開館後には、前立正大学長・故坂本幸男博士所蔵本が寄贈される事となっており、図書の実ばかりでなく極めて貴重な蔵書もあることから、学園を裨益する所は莫大であります。（以下略）

と記され、更に『棲神』第六十一号（平成元年三月発行）収録「学園彙報（昭和六十三年度）」の「(II) ◇図書館情報◇(1) / 「坂本日深文庫」の寄贈を受く」（二二八頁）の記事に、

立正大学々長・文学博士、故坂本幸男先生（法号・博文院日深上人）の蔵書一万点が昭和六十三年十二月二十五日、本学図書館に寄贈された。（中略）

坂本先生が生前中に蔵書された和漢書・洋装本・洋書・紀要雑誌などの中には貴重本も多く、御苦労して蒐集された稀刊書も多数含まれており、当図書館としても整理保管、利用に充分に留意しなければならない。

坂本先生の遺児・坂本静女史と身延山総務望月一靖師による譲与に関わる話し合いがスムーズに進められ、当図書館に納書される事となりましたが、「坂本文庫」の寄贈によって、本図書館の蔵書内容が質量共に充実拡大して、学園教職員・学生・本山役職員など、その裨益にあずかる所は大きい。（以下略）

と、身延山短期大学学園図書館（現、身延山大学附属図書館）の竣工落成（昭和六十三年（一九八八）十一月二十九日）の後、正式に寄贈を受けたことが報告されている。

坂本家からの寄贈を受けて、図書館では洋装本からカード式による登録を開始し、平成八年（一九九六）からはカードデータの電算化を実施、学内OPACからの書誌・所蔵情報の閲覧を可能にした。

和漢古典籍については、寄贈時より一部の資料の整理・登録を実施していたが、平成十一年（一九九九）より本格的な整理を開始し、平成十五年（二〇〇三）よりデータの電算化を実施した。²⁾

その後、紀要雑誌の所蔵データの登録及び原稿・ノート等の整理を実施している。

以下、令和二年三月現在の坂本文庫のデータ登録状況を記す。³⁾

洋装本（和書）

思想・宗教書（除、仏教書）

四五二冊

仏教書（内、日蓮宗書籍三六六冊）

二六二八冊

その他書籍

六二九冊

計三七〇九冊

洋装本（洋書）

思想・宗教書（除、仏教書）

三五冊

仏教書（内、日蓮宗書籍六冊）

二〇三冊

その他書籍

九二冊

計三三〇冊

洋装本総計四〇三九冊

雑誌

和雑誌（二六タイトル）

四〇三冊

各種講義録

八三冊

各種草稿

八六点

和漢古典籍

天台宗章疏

二二三部

華嚴宗章疏

二一六部

真言宗章疏

一三四部

法相宗章疏

七四部

日蓮宗章疏

六〇部

禪宗章疏

五〇部

三論宗章疏

十五部

浄土宗・浄土真宗章疏

五部

法華經

四部

律宗章疏

二部

その他仏教書

五八部

仏教書以外

十三部

和漢古典籍総計八六三部

以上の坂本文庫所蔵資料を見てみると、次の通り分析することが可能である。

その一、洋装本は和書・洋書共に仏教書が全体の約八割を占め、他に思想・仏教以外の諸宗教に関する書籍が全体の一割に当たる。特に仏教書は『大日本仏教全書』『国訳一切経』『南伝大藏経』『日本大藏経』等の大部の書籍及び經典に係る書籍を中心に蒐集され、各宗派の書籍は日蓮宗書籍が半数を占め、天台教学・華嚴教学・部派仏教教学に関する書籍が目立つ。各宗派に係る書籍を比較的万遍に揃えているように見受けられるが、その中でも禅宗書籍を突出して蒐集していることが特徴である。

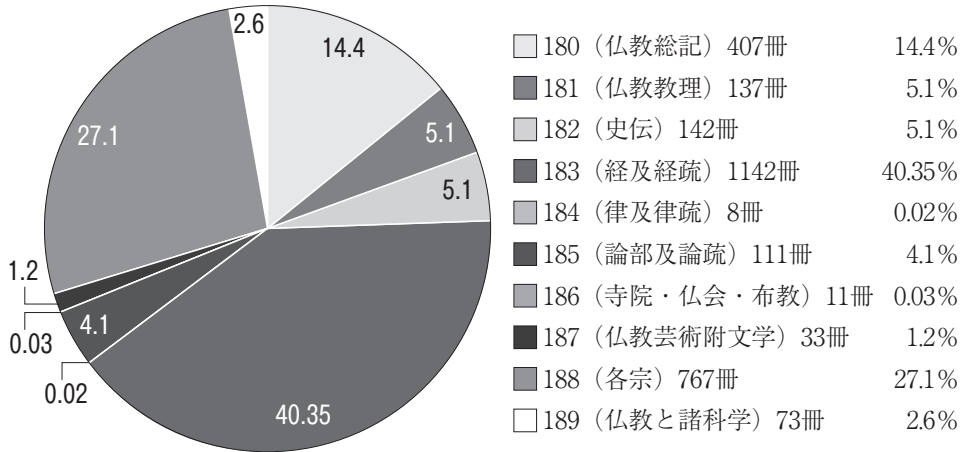
その二、和漢古典籍についても洋装本と同様の傾向が見受けられる。特に旧蔵者の専門分野であった法華教学・華嚴教学・部派仏教教学に係る典籍の他に、真言教学に係る典籍も多い。しかし浄土教学に係る典籍は五部と、所蔵和漢古典籍全体に占める割合が僅少である。浄土教学に関する洋装本は別記グラフの通り、他の宗派書籍と冊数は同程度であることと比較すると、旧蔵者の浄土教学古典籍への関心の低さが窺える。

以上を概観すると、坂本文庫資料は旧蔵者の研究分野に係る資料が洋装本・和漢古典籍共に中心を占め、その上で仏教全体を俯瞰することが可能な蔵書構築を目指していたことを窺うことができる。

注

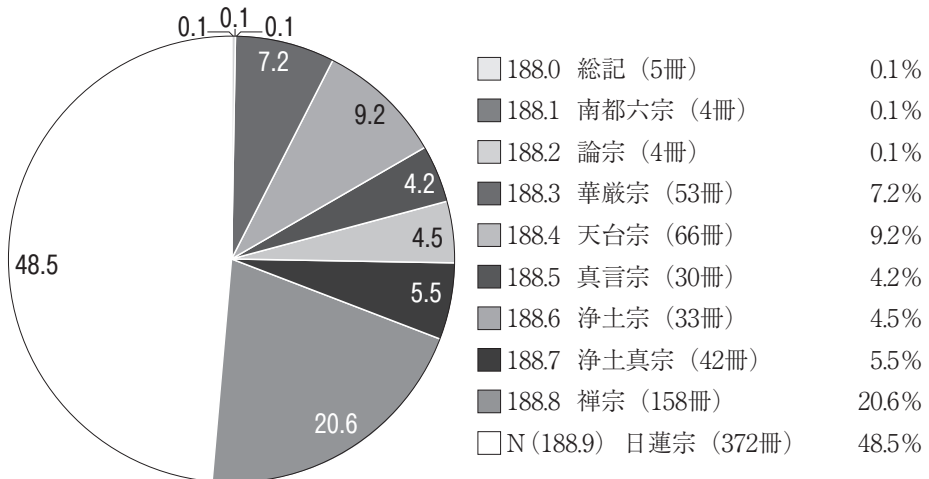
- (1) 図書館で所蔵している他の個人文庫としては、池原文庫（山梨県富士川町・本山妙法寺貫首・故池原鍊正猊下蔵書）影山文庫（立正大学名誉教授・故影山堯雄師蔵書）高源寺齊藤通雄文庫（山梨県甲府市・高源寺住職・故齊藤通雄師蔵書）高橋司記念文庫（宮城県故高橋司氏の寄付金により設置）中尾文庫（立正大学名誉教授・中尾堯文師蔵書）中谷文庫（立正大学教授・故中谷良英師蔵書）平原文庫（山梨県南部町・内船寺住職・故平原要俊師蔵書）深山文庫（身延山大学教授・故深山正光氏蔵書）藤井日光文庫（身延山久遠寺九十一世故藤井日光猊下蔵書）松本文庫（旧身延山短期大学学頭・故松木本興師蔵書）松山文庫（印度学者故松山俊太郎氏蔵書）妙長寺文庫（三重県尾鷲市・妙長寺住職・故青木健斎師蔵書）がある。
- (2) 図書館では自館 OPA C (<http://blabo.nin.ac.jp/blabo/AllSch.htm>) 以外にも、国立情報学研究所運営の www.cinii.ac.jp/books/ に坂本文庫所蔵資料（和漢古典籍を含む）の所蔵情報提供を実施した。
- (3) 図書館では令和二年三月現在、坂本文庫軸装資料等の整理を実施中である。

坂本文庫仏教書 仏教図書共通分類別割合



※数値は洋装本のみ（和書・洋書合計数）

坂本文庫各宗派書籍割合



※数値は洋装本のみ（和書・洋書合計数）

仏教書の分類について、身延山大学附属図書館で利用する「仏教図書共通分類表」（佛教図書館協会 1990年）を使用。なお、身延山大学附属図書館では日蓮宗書籍を188.9ではなくNと表記して使用。

〈付記〉（編者）

本資料は、身延山大学付属図書館所蔵坂本日深文庫本を初めて影印出版するにあたり、本文庫の来歴や性格について紹介すべく、本学附属図書館の沼田晃佑事務長にご執筆いただいたものである。参考までに本学付属図書館の旧サイトの個人文庫のページに掲載されていた（現在は「日本の大蔵所蔵特殊コレクション」[<https://thsosa.dijohkyo.org/>]）でしかみることができない）坂本日深文庫の紹介を転載しておきたい。

坂本日深文庫（坂本幸男）

仏教学者の坂本幸男（さかもと ゆきお、法名…日深 にちじん、一八九九～一九七三）旧蔵の仏教書を中心とした洋装本の和書約三〇〇〇冊、洋書約二六〇冊（サンスクリット語、チベット語を含む）、および和漢古典書（江戸時代を中心に明治初年までに印刷または筆写された資料）一二四三卷八八三一冊からなる。坂本日深の著作原稿、講義録ノートも含む。

坂本幸男は東京帝国大学印度哲学科を卒業。東洋大学教授を経て、一九四八年立正大学教授となり、のち学長を務めた。日本の仏教学界の重鎮で、華嚴学の泰斗として知られ、法華教学、天台教学、日蓮教学にも造詣が深かった。一九四一～一九五一年身延山大学の前身である身延山専門学校で講師として勤務した。墓所も身延山にあることから、一九八八年に遺族より蔵書の寄贈を受けた。目録として和漢古典籍に関して『坂本幸男先生蔵書寄贈目録』が作成されている。

なお、坂本日深文庫の詳細については、本学の附属図書館と立正大学図書館にしか収蔵されていない『坂本日深文庫蔵書目録——故坂本幸男先生寄贈書目録——』（坂本春江編）を参照されたい。

また、本書収録の「正保三年版『法華論』」には「昭和三十九年一月十三日求之 坂本幸男（日深）春秋 六十六才」（第三十二丁裏面）と、購入年月日とその時の年齢が記されている。坂本日深文庫の調査を行った本学の池上要靖教授によると、このように本文庫の資料にはその由来が明記されているため、該当資料の当時における所蔵状況などを遡及し得る手がかりになるといえる。ご教示いただいた池上要靖教授に深謝の意を表する次第である。ちなみに本文庫資料の学術的な利用について、編者の研究領域（東アジア仏教）に限って言えば、本文庫本と龍谷大学図書館所蔵本しか知られていない『華嚴十玄義私記』が二千年代の初めに研究されている。